

## 社会福祉学科の教員 高等学校で出前授業

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科では、兵庫県の「進路選択学生等支援事業」による助成を受けて、県下の高等学校に教員が出向き、福祉・介護・人権に関する特別授業、講演、進路相談を平成26年から行っています。

平成28年9月から10月の間に申し込みがあった兵庫県下の四つの高等学校で延べ7回の出前授業を行いました。

同学科の教員は、各高校の要望により実習や講義を行い、高齢者、障がい者、児童、生活困窮者などのさまざまな生活課題がある人びとへの理解を深め、専門職としての福祉の仕事の説明し、進路選択の支援を行っています。

兵庫県立北須磨高等学校 「介護実習について」 横山 正子教授 泉 妙子教授	兵庫県立明石南高等学校 「福祉専門職としての価値観」 松崎 喜良教授 曾田 里美准教授
兵庫県立星陵高等学校 「子どもの発達と保育」 松崎 喜良教授	兵庫県立鳴尾高等学校 「福祉について」 松崎 喜良教授



高齢者の身体変化について体験する授業。視覚障害疑似体験のゴーグル、おもりの入った着衣をつけて機能低下を体験  
講師：横山正子教授



「福祉について」の講義  
講師：松崎喜良教授

## 介護福祉士を目指す学生 デフバレーボール世界選手権出場

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科2年生の戌丸 奈美さんは、2016年7月6日から15日までの間、アメリカ ワシントンDCで行われた第3回デフバレーボール世界選手権(2016 World Deaf Volleyball Championships)に出場しました。デフバレーボールとは、聴覚障がい者によるバレーボールのことです。

戌丸さんは小学校5年生からバレーボールをはじめ、高校生になって本格的に取り組み、デフバレーボールの日本代表の選手として選ばれるようになりました。



生活支援技術(応用)の授業、血圧を測る実習中の戌丸さん



老人保健施設での実習を発表する戌丸さん

これまでは周囲の人に助けられることが多かったのですが、将来は誰かを助ける仕事に就きたいと考え、大学では介護福祉士を目指して勉学に取り組んでいます。

バレーボールの試合や練習では、チームメイトとアイコンタクトや身振り手振りなどを使い、常に相手の位置や動きを把握しながらプレーします。相手に気を配り、意思疎通を図ることは介護の世界も同じです。戌丸さんは、世界選手権が終わった後、8月中旬から1ヶ月間、老人保健施設で介護の基本を学ぶために実習を経験しました。最初は、意志のやり取りがスムーズにできなかったのですが、筆談や口話<sup>(注1)</sup>で、しだいにコミュニケーションがとれるようになり、楽しく実習を終えることができました。利用者の特性によって介助の仕方や接し方の違いを把握することが必要なことが実感でき、さらに勉強する意欲が高まりました。

2017年にトルコで開催されるデフリンピック<sup>(注2)</sup>の出場を目指し、日本代表強化合宿に、今後も参加します。



戌丸奈美さん

(注1)口話：口の動きで言葉を読み取り、健聴者と同じ様に声を出して話をする

(注2)デフリンピック(Deaflympics)：ろう者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催された

## 神戸市須磨区防災福祉コミュニティ大会の「炊き出し訓練」に協力

神戸市須磨区防災福祉コミュニティ等連絡会議主催による第16回須磨区防災福祉コミュニティ大会が平成28年11月6日(日)神戸総合運動公園で開催され、「炊き出し訓練」に神戸女子大学の学生消防団員6名と、阪神・淡路大震災を機に発足した管理栄養士養成課程の学生で構成されたボランティアグループV-net+<sup>ブイネットプラス</sup>(以下V-net)の部員2名が、参加協力しました。

この大会は、災害時に対応できるように実践に即した訓練を実施し、住民による自主防災体制の充実と防災意識の高揚を図ることを目的に毎年開催されています。今回は初めて炊き出しの訓練を行うことになり、本学にメニューの考

案と訓練への協力要請がありました。

当日の訓練では、V-netの部員が考案した「さばの味噌煮ごはん」42合と白ごはん168合を「災害救助用炊飯袋」を使って炊きあげました。事前の試作会でリハーサルや打ち合わせを行っていたこともあり、須磨区内21地区からこの訓練に参加した皆様と協力してスムーズに作業を行うことができました。

参加した学生は、訓練を通して防災への知識を深めるとともに地域の皆様と協働することで、日頃の災害への備えと地域との連携協力の大切さを実感する一日となりました。



学生消防団員とV-net+の部員の炊き出し作業



「さばの味噌煮ごはん」の炊きあがりを確認



須磨警察署の防犯キャンペーンに協力したBBS部員と一緒に記念撮影

## 神戸市立須磨離宮公園 第14回「もみじ観賞会」茶道部参加

「キャンパス・パーク連携」<sup>(注)</sup>を結んでいる神戸市立須磨離宮公園の第14回「もみじ観賞会」のイベントの一つ「もみじ明かりとお抹茶」が平成28年11月26日(土)、27日(日)に開催され、神戸女子大学の茶道部の部員6名が協力しました。

このお茶会は同園が岡崎財閥から引継いだ由緒ある建物「和室」で行われ、訪れた約120人の市民の皆様へ茶の湯を楽しんでいただきました。

同公園では紅葉が見ごろを迎え、午後5時から始まった「和室」のお茶席からは、ライトアップされた美しい紅葉を眺めることができました。ろうそくの明かりだけが室内で灯り、訪れた人びとは静かに薄茶を味わい、幻想的な幽玄の世界に浸っていました。

茶道部は、小学生からお稽古を始めた学生から初心者として入部した学生まで茶道に関わった年月はさまざまですが、部員全員が仲良く協力して学園祭のお茶席を運営し、神戸市須磨区高倉台ふれあいのまちづくり協議会主催の「梅見の会」や「須磨大茶会」にも参加し盛り立てています。部員たちは「心が落ち着く」「日本の文化を学べる」「礼儀作法が身につく」とお稽古に励み、茶道を通して地域への貢献活動を今後も続けていきます。

(注) 神戸女子大学と神戸市立須磨離宮公園は、平成18年12月に隣接する地理的条件を生かし、本学の教職員と学生が同園を教育・研究の場として使用できるようになっている



「和室」から見たライトアップされた庭園



おもてなしする学生



茶道部の学生と顧問の十一玲子准教授(後列左)

WEBでは掲載しておりません

### 外務省主催の外交講座 須磨キャンパスで開催

平成28年10月26日(水)神戸女子大学須磨キャンパスにおいて、外務省主催による世界における国際協力の現状を学ぶ外交講座が開催されました。

同省国際協力局地球規模課題総括課 課長補佐 石塚 恵氏が「持続可能な開発のための2030アジェンダと日本の取組」という演題で講演し、文学部神戸国際教養学科の専門科目「グローバル・ローカル専門演習Ⅱ」や共通教養科目「世界の民族と宗教」を履修している約150名の学生が受講しました。

石塚氏は、国際連合が行ってきた極度の貧困を解決することが主であった「ミレニアム開発目標 (MDGs)」の活動とその成果について述べ、新たに国連が採択した一国だけでは解決できない気候変動、自然災害、感染症といった地球規模の課題を具体的な目標を掲げて取り組む「持続可能な開発目標 (SDGs)」について詳細な解説をしました。

幅広い国際教養と世界に通用するコミュニケーション力を身につけ、国際分野でリーダーシップを発揮して、世界の平和と地球の未来に貢献できる女性を育成することを教育目標に掲げる神戸国際教養学科の学生には、今後の勉学に大きな励みと刺激になりました。

次代を担う学生が、地球規模の課題や持続可能な社会へ自分は何ができるか考える機会となり、外務省の第一線で活躍中の石塚氏の講演に感銘を受けた学生が講演後にも質問するなど、有意義な外交講座となりました。



外交講座の様子



「ミレニアム開発目標 (MDGs)」と「持続可能な開発目標 (SDGs)」を解説する石塚恵氏



講演する石塚氏